平成28年度

環境活動レポート

～未来のこどもたちのために～

～アマダ優秀板金製品技能フェア出展作品～

＜サッカーボール＞

活動期間：平成28年10月～平成29年9月
作成日：平成30年9月29日
更新日：平成30年11月12日

株式会社　坂口製作所

目次

○ 会社概要	～1～
○ 環境方針 実施体制図	～2～
○ 環境目標	～3～
○ 環境活動計画の取組結果とその評価	
・ 電力使用量の削減	～5～
・ ガソリン使用量の削減	～6～
・ 軽油使用量の削減 灯油使用量の削減	～7～
・ 二酸化炭素排出量の削減	～8～
・ 水道水の使用量削減	～9～
・ 化学物質の使用量削減 一般廃棄物（燃えるごみ）の排出量削減	～10～
・ 産業廃棄物（混合廃棄物）の排出量削減	～11～
・ 産業廃棄物（廃プラスチック）の排出量削減	～12～
・ 梱包資材の購入量削減 グリーン購入金額比率の向上	～13～
○ エコ活動への取組	～14～
○ その他の活動	～19～
○ 環境関連法規制等の取りまとめ 代表者による全体の評価と見直し	～20～

会社概要

事業者名：株式会社坂口製作所

代表者名：代表取締役社長　坂口　清信

所在地：本社

〒557-0054　大阪市西成区千本中2丁目4番14号
従業員数10名　敷地面積 553㎡

和歌山工場

〒643-0521　和歌山県有田郡有田川町清水877番地の1
従業員数72名　敷地面積11,200㎡

事業規模：製品出荷額　9億円／年

事業年度：10月～9月

事業内容：工業用各種アルミ・ステンレス製品の設計、製造、加工及び販売

主要製品：鉄道車輌部品、信号器具箱、工業用各種トレー、空調関連機器等

★和歌山工場における製品を納品するまでの工程

営業活動 → 板金展開 → 資材購入 → 板金加工 → 組立加工 → 溶接 → 仕上 → 検査 → 納品

環境方針

株式会社坂口製作所は、紀伊山地の中央に位置する有田川町清水に生産拠点を構え、緑と有田川の清流に囲まれて日々生産活動を展開しています。地域社会と共生し、社業を発展させていく上で、この美しい自然を守ることは当社の社会的責務であり、またそのことが、引いては地球全体の環境保全にも寄与するものと考えます。
そこで当社では、具体的に以下の項目について全社員で取組んでまいります。

①環境関連法規制や当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

②電力・化石燃料使用量の低減を通じて二酸化炭素排出量の削減を進めます。

③一般および産業廃棄物の削減を進めます。

④排水量の削減を進めます。

⑤地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動への協力等を通じて、地域社会とともに環境保全に取組みます。

⑥ｸﾞﾘｰﾝ購入を計画的に進めます。

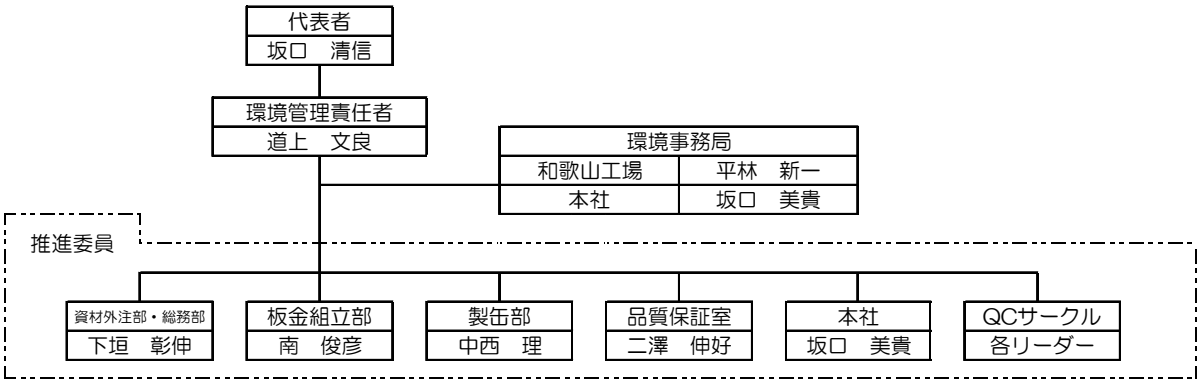
⑦化学物質については法令を遵守し、適正に管理します。

⑧製品への環境配慮を進めます。

制定日：平成22年11月4日
改定日：平成27年7月31日
代表取締役社長：坂口　清信

有田川町は、紀伊半島の北西部に位置する豊かな自然と歴史のある町です。
　和歌山工場がある有田川町清水地区には、奇観の棚田として知られる蘭島（あらぎ島）があります。
　左記写真は、対岸にある展望台から撮影した蘭島です。

実施体制図



★弊社は、推進委員を設け全社員一体となって活動を進めています。
○各部門の部門長は、定例会議(製販会議・工程会議・安全衛生委員会)においてエコアクション活動の進捗を確認しています。
○各ＱＣサークルのリーダーは、自サークル及びリーダー会でエコアクション活動を推進しています。

環境目標

★環境目標の３ヵ年計画

平成28年度における各管理項目の目標値は、平成27年度の活動結果の評価を行い成果の良くなかった項目について、日々の生産活動に、より密接した目標値に変更し新たに平成27年度を基準年度とした3カ年計画を作成しました。詳細は下記より御説明します。

〇低酸素社会の実現に向けて

管理項目	単位	平成27年度 基準値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値
電力使用量の削減	kWh/百万円	733.5	718.8	711.5	704.1
			▲ 2%	▲ 3%	▲ 4%
ガソリンの使用量削減	L	12,282	12,036	11,913	11,790
			▲ 2%	▲ 3%	▲ 4%
軽油の使用量削減	L	3,311	3,245	3,212	3,179
			▲ 2%	▲ 3%	▲ 4%
灯油の使用量削減	L/1000H	421.4	413.0	408.7	404.5
			▲ 2%	▲ 3%	▲ 4%
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	541,962	531,123	525,703	520,283
			▲ 2%	▲ 3%	▲ 4%
水道水の使用量削減	㎥/1000H	4.73	4.64	4.59	4.54
			▲ 2%	▲ 3%	▲ 4%
化学物質の使用量削減	ｋｇ	477.0	467.5	462.7	457.9
			▲ 2%	▲ 3%	▲ 4%

弊社は、本社を営業の拠点、和歌山工場を生産拠点として日々生産活動をしています。特に和歌山工場では油圧ブレーキ機やレーザー加工機等の板金機械、製缶作業における溶接機を多量に完備しているため「電力」は絶対に欠かせないエネルギーです。また、立地条件から、社用車の燃料や冬期の暖房機器燃料も必要となるため、和歌山工場のエネルギー消費量は本社よりも多くなります。しかし、日々の生産活動のなかで効率のいい作業方法を実践しエネルギー消費量の削減に取組み、低酸素社会の実現に向けて努力しています。

注）
〇電力使用量は売り上げ百万円当たりで評価します。
〇ガソリン及び軽油使用量は本社及び和歌山工場の使用量を合計し絶対量で評価します。
〇灯油の使用量は和歌山工場における12月から3月までの使用量を12月から3月までの就業時間1000時間で当たりで評価します。年間使用量は、通年の使用量とします。
〇二酸化炭素排出量は、下記排出係数にて各項目の絶対量を計算し絶対量で評価します。
・本社の電力における二酸化炭素排出係数は0.509kg-CO2/kWhで算出します。
・和歌山工場の電力における二酸化炭素排出係数は0.634kg-CO2/kWhで算出します。
・ガソリン一絶対量（L）×0.0671（kg-CO2）×34.6（MJ/L）で算出します。
・軽油　一　絶対量（L）×0.0687（kg-CO2）×38.2（MJ/L）で算出します。
・灯油　一　絶対量（L）×0.0679（kg-CO2）×36.7（MJ/L）で算出します。
〇水道水は就業時間1000時間当たりで評価します。
〇化学物質は和歌山工場で使用している油脂洗浄剤に含まれるトルエンの使用量を指し絶対量で評価します。
〇売り上げ百万円当たり、就業時間1000時間当たりで評価する項目の年間使用量は、通年の使用量とします。

○循環型社会の実現に向けて

管理項目	単位	平成27年度 実績値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値
一般廃棄物の削減	kg	3,366	3,299	3,265	3,231
			▲ 2%	▲ 3%	▲ 4%
混合廃棄物の削減	kg/百万円	1.04	1.02	1.01	1.00
			▲ 2%	▲ 3%	▲ 4%
廃プラスチックの削減	%	89.9	91.7	92.6	93.5
			△ 2%	△ 3%	△ 4%
再加工材料費の削減	金額指標	100.0	47.1	47.1	47.1
			▲ 52.9%	▲ 52.9%	▲ 52.9%
梱包資材の購入量削減	kg/百万円	2.66	2.61	2.58	2.55
			▲ 2%	▲ 3%	▲ 4%
グリーン購入金額比率の向上	%	64.6	55.0	55.0	55.0
			―	―	―

弊社から発生する廃棄物は、可能な限り分別に取り組むことで３Ｒを実践しています。前年度まで管理項目としていた「ダンボールの資源化」については、回収可能なものは回収業者によって全てリサイクルされているため目標達成できたと考え、今年度の管理項目から除外します。活動は引き続き継続します。また、アルミニウムやステンレスの剰余材も引き続き材質別素材別に分別し有価物として回収されリサイクルされています。

注）

○一般廃棄物とは、和歌山工場から排出される製作図面等のシュレッダーくずや一般的な燃えるゴミを、本社では、業者に回収されているシュレッダーくずを含まない一般的な燃えるゴミを指し、絶対量で評価します。

○混合廃棄物とは、和歌山工場から排出され安定型最終処分場で埋立処分される産業廃棄物を指し売り上げ百万円当たりで評価します。年間排出量は、通年の排出量とします。

○廃プラスチックとは、和歌山工場から排出される廃プラスチック排出量に対するリサイクル量の比率を再利用率として評価します。年間排出量は、通年の排出量とします。

○再加工材料費とは、昨年度まで「剰余材の有効利用」としていましたが、検証の結果、本来なら必要としない再加工による材料費を削減することが資源の有効活用につながると考え活動対象を変更しました。なお、評価方法について環境活動計画書では金額で評価していますが、環境活動レポートは基準年度比の金額指標としています。

○梱包資材購入量は、和歌山工場において梱包時に使用するエアーキャップやストレッチフィルム購入量を売り上げ百万円当たりで評価します。

○グリーン購入比率とは、本社及び和歌山工場で購入する資材類のうち事務用品の購入を対象とした環境対象商品の購入割合を評価します。

日々エコアクション活動を続けていても、弊社のような完全受注生産方式では受注量の増加や短納期対応が増加することで目標達成出来ない項目が生じてしまいます。その為目標達成できなかった項目は３カ年計画を作成しても、社員全員がエコアクション活動を有意義に継続出来るよう見直しを行い、目標値を再設定しています。

次ページより、本社の活動成果、和歌山工場の活動成果から各項目における事業所全体の活動成果を評価します。

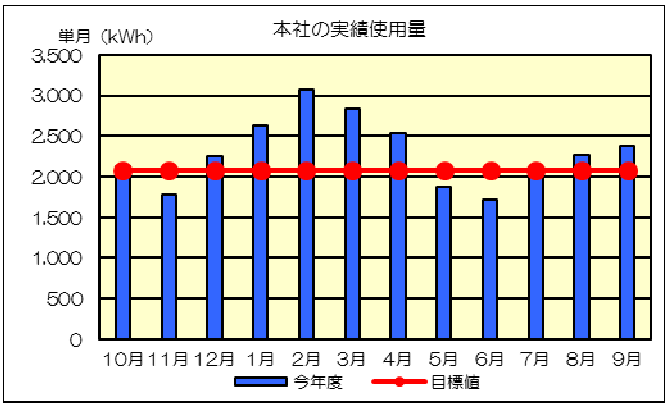
環境活動計画の取組結果とその評価

★電力使用量の削減

○環境活動計画（本社、和歌山工場共通）

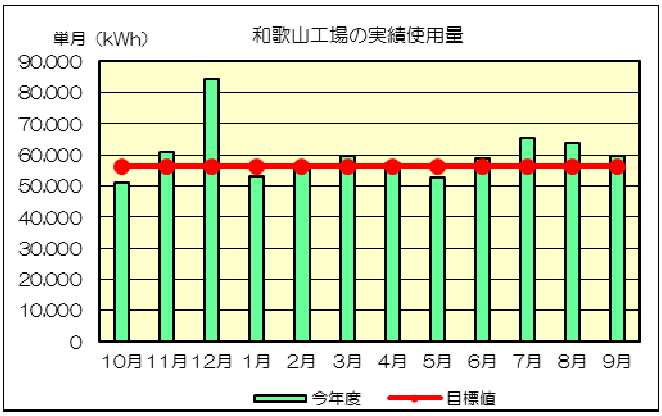
- 西日対策のよる夏期冷房温度の抑制
- 空調温度の最適化推進
- エリア別照明点灯及び場内照明の間引き点灯推進
- 未使用のパソコン電源オフ徹底

○本社の実績使用量をグラフにしてみました。



本社では、西日対策による夏期冷房温度の抑制や空調温度の最適化など実施しましたが、冬期の気温が例年よりも低かったことで空調温度を高めに設定したことが影響し今年度の実績使用量は基準年度よりも103.6%も増加しました。また、営業活動で出先でもメール受信を可能にするため、事務所内のパソコン電源を入れたまま外出していることも増加の一因と考えます。今後は、出先での情報伝達方式を改善し不要な電力の削減に努めます。

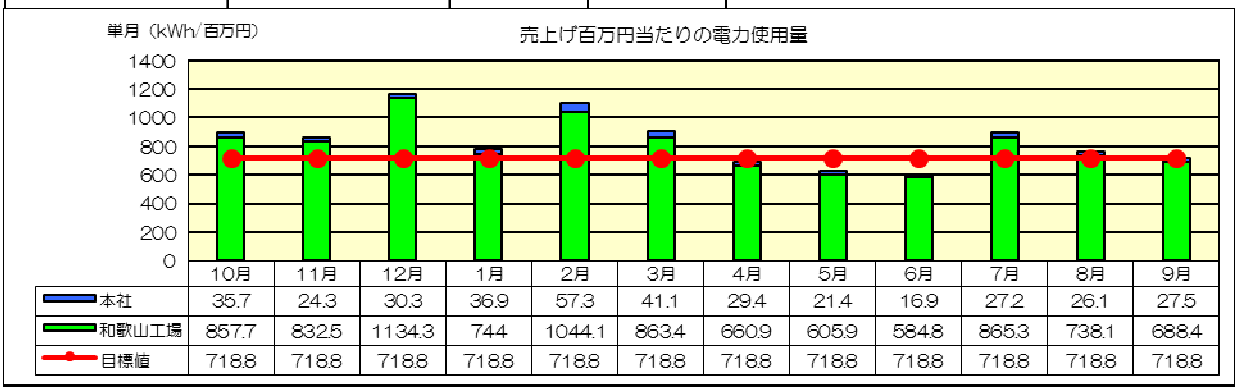
○和歌山工場の実績使用量をグラフにしてみました。



和歌山工場では、エリア別照明点灯や場内の間引き点灯など実施しましたが完全受注生産方式では、仕事量の増加や短納期対応などにより電力使用量は増減を繰り返します。特に、例年仕事量が増加する12月や弊社の年度末にあたる7月から9月は残業時間の増加も影響し今年度も削減出来ませんでした。そのため、今年度の和歌山工場の実績使用量は基準年度よりも104.9%も増加しました。今後は、仕事量が増加しても対応できる工程管理を実践し電力削減に努めます。

●今年度の取組結果は……

目標	実績	対目標	評価
718.8 kWh/百万円	811.9 kWh/百万円	112.9%	×



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社	35.7	24.3	30.3	36.9	57.3	41.1	29.4	21.4	16.9	27.2	26.1	27.5
和歌山工場	857.7	832.5	1134.3	744	1044.1	863.4	660.9	605.9	584.8	865.3	738.1	688.4
目標値	718.8	718.8	718.8	718.8	718.8	718.8	718.8	718.8	718.8	718.8	718.8	718.8

弊社では、和歌山工場を生産拠点としているため板金機械や溶接機など「電力」を動力とする設備を多数使用しているため和歌山工場の使用量は、事業所全体の約95%以上を占めています。また、売上げ金額が多い月は売上げ百万円当たりの使用量は減少していることも分かりました。今年度の事業所全体の取組結果は、目標値718.9kWh/百万円に対し811.9kWh/百万円と112.9%増加し目標未達成でした。今後は仕事量の増加する期間の電力を抑制する工程管理を検討・実践します。

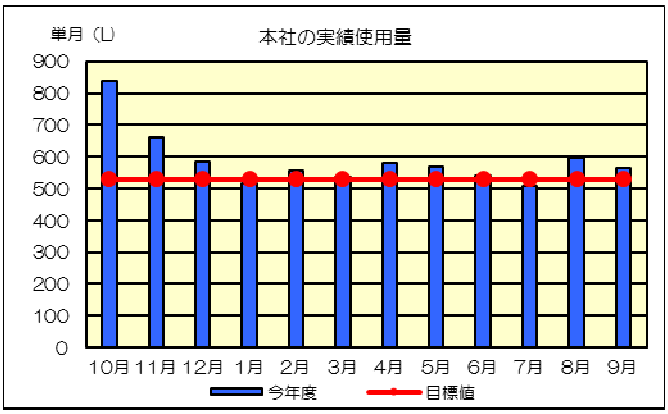
★ガソリン使用量の削減

〇環境活動計画（本社、和歌山工場共通）

・エコドライブの推進

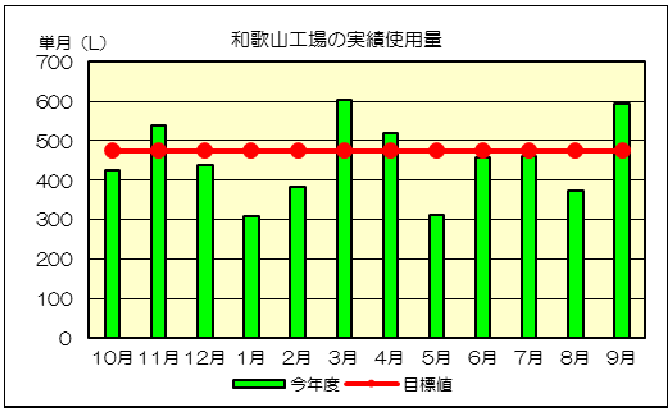
・外出時の可能な範囲での乗合

〇本社の実績使用量をグラフにしてみました。



本社では、ガソリン仕様の社用車が2台あります。本社は、公共交通機関に囲まれているので、可能な範囲での利用促進を推進していますが、客先訪問において手で搬入できる大きさの製品を納品することもあり社用車の利用機会は増加しています。
今年度は客先訪問件数が増えましたが、和歌山工場での製作事前打合せや初品完成後の検討会議が増加したことで、今年度の使用量は基準年度よりも107.2%も増加しました。今後は、公共交通機関の利用促進を継続し社用車の利用機会削減に努めます。

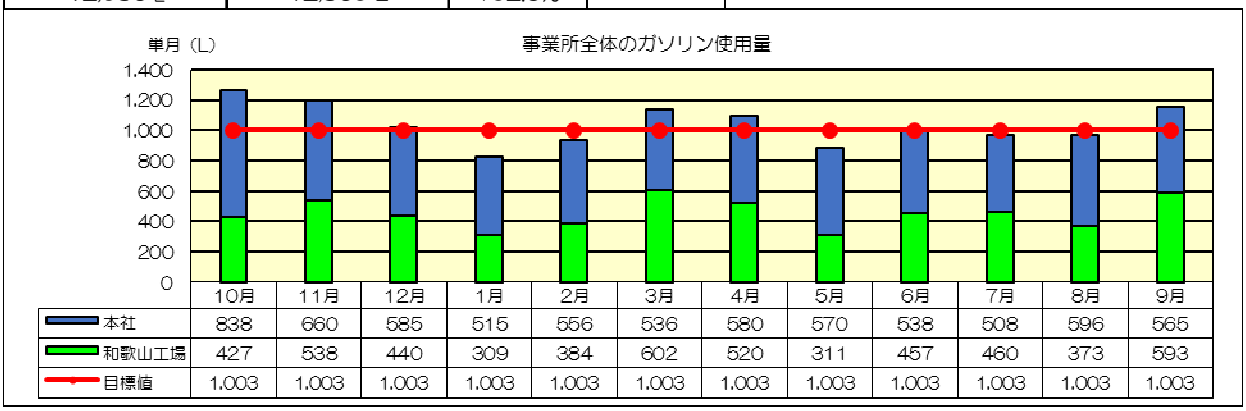
〇和歌山工場の実績使用量をグラフにしてみました。



和歌山工場では、ガソリン仕様の社用車が３台あり主に出張や営業活動などで活用しています。和歌山工場は高速道路や主要な駅から離れているため客先訪問の際は必ず車を使わなければなりません。エコドライブを推進していますが効果はあまり出ていません。しかし、今年度の実績使用量は基準年度の93.3%まで削減に成功しました。これは、単に出張機会を合わせるなどして社用車の使用機会が減少したためと考えます。今後もエコドライブの推進を継続し使用量削減に努めます。

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
12,036 L	12,360 L	102.6%	×



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社	838	660	585	515	556	536	580	570	538	508	596	565
和歌山工場	427	538	440	309	384	602	520	311	457	460	373	593
目標値	1,003	1,003	1,003	1,003	1,003	1,003	1,003	1,003	1,003	1,003	1,003	1,003

弊社のガソリン使用量は、営業の拠点としている本社の使用量が和歌山工場よりも多くなっています。今年度の実績使用量は、基準年度と比べ本社は464Lの増加しましたが、和歌山工場は386L削減出来ました。事業所全体の取組結果は、目標値12,036Lに対し12,360Lで102.6%の増加となり目標未達成でした。今後は、出張などで遠方に行く場合は可能な範囲で公共交通機関を利用してもらい社用車の利用機会削減に努めます。また、エコドライブの推進の継続とオイル交換や空気圧点検などの定期点検を実施し社用車の燃費向上を心がけます。

★軽油使用量の削減

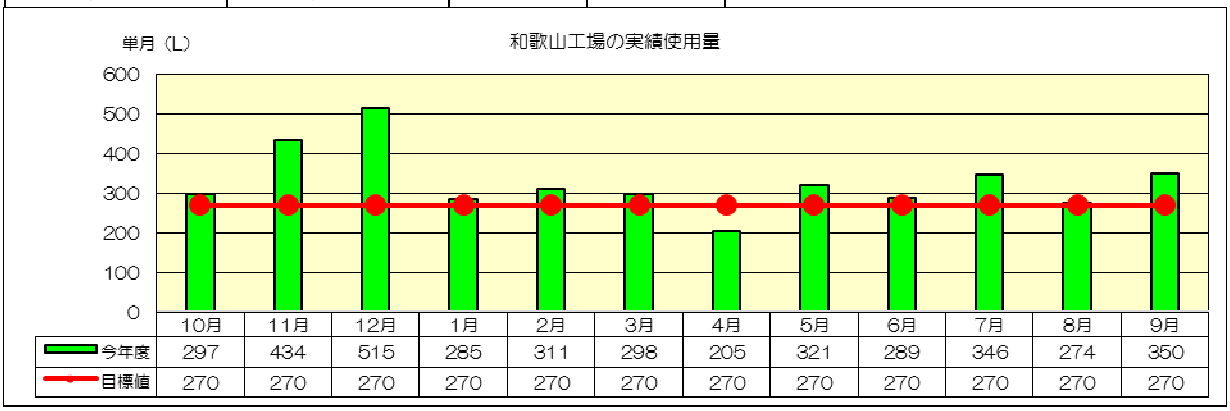
〇環境活動計画（和歌山工場のみ）

・エコドライブの推進

・外出時の可能な範囲での乗合

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
3,245 L	3,924 L	120.9%	×



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
今年度	297	434	515	285	311	298	205	321	289	346	274	350
目標値	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270

弊社の軽油仕様の社用車は、和歌山工場にある2トントラックとワンボックス車の2台です。軽油車もガソリン車と同様な活動を実践しました。受注した仕事内容で和歌山工場で加工出来ないロール加工や塗装工程などがある場合は、トラックで素材や半製品を外注加工業者に搬入します。また、遠方への現地出張工事の場合、脚立や多量の工事道具を持参するためワンボックス車も活用します。今年度の外注加工業者への搬入機会や現地出張工事は例年より増加しました。このことから今年度の使用量は目標値3,245Lに対し3,924Lとなり120.9%も増加し目標未達成となりました。今後は外注加工業者への搬入の際は、可能な限り集約できるよう工程管理を徹底しトラック使用機会の削減に努めます。

★灯油使用量の削減

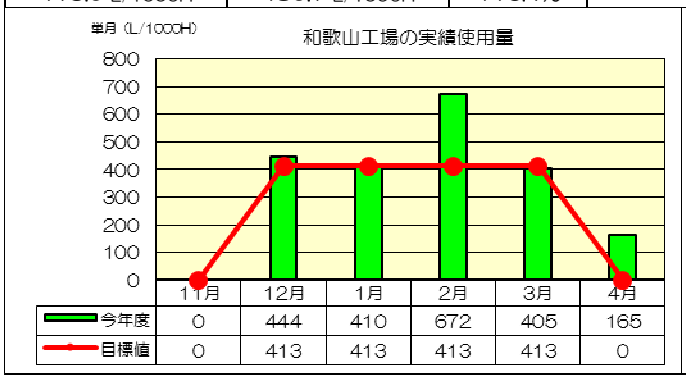
〇環境活動計画（和歌山工場のみ）

・石油ストーブの使用基準の徹底

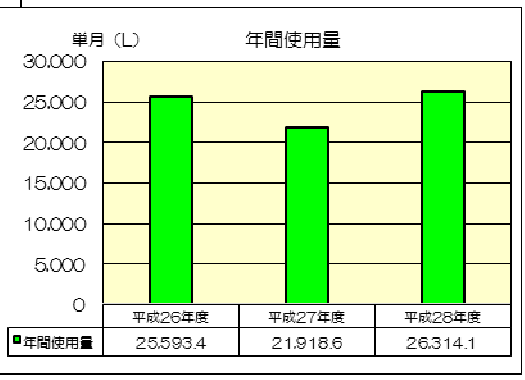
・昼休みの小まめな消火の推進と扉の小まめな開閉の推進

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
413.0 L/1000H	480.7 L/1000H	116.4%	×



	11月	12月	1月	2月	3月	4月
今年度	0	444	410	672	405	165
目標値	0	413	413	413	413	0



	平成26年度	平成27年度	平成28年度
年間使用量	25,593.4	21,918.6	26,314.1

弊社は、和歌山工場で冬期に使用する暖房機器の燃料として灯油を活用しています。石油ストーブの使用基準とは「定点に設置している温度計が10℃を上回ると暖房機器の使用停止」となるのですが、今年度の冬期は例年になく冷え込んだため暖房機器の使用は必需でした。また、仕事量増加により残業時間が増加したことも灯油使用量増加の要因と考えます。評価基準となる12月から3月の使用量を同時期の和歌山工場の就業時間で割った使用量は、目標値413Lに対し480.7Lと116.4%も増加しており目標未達成となりました。今後は建屋に部材などを搬入する場合の小まめな扉の開閉を徹底し、熱気の放出を最小限に留め灯油使用量の削減に努めます。

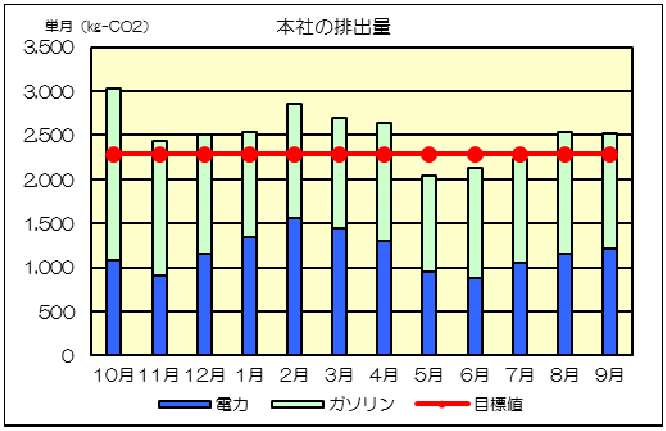
★二酸化炭素排出量の削減

○環境活動計画（本社、和歌山工場共通）

・電力の使用量を削減する

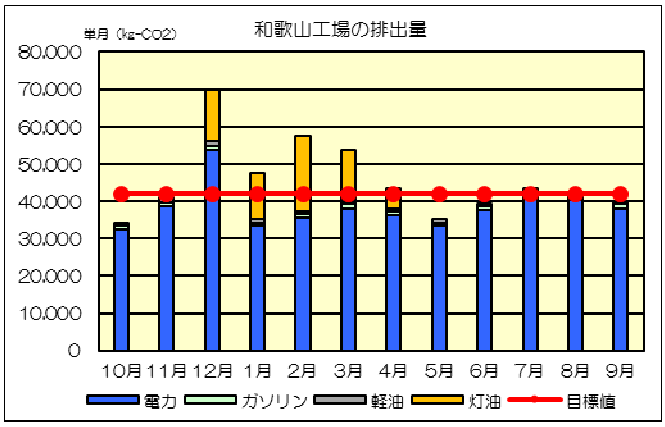
・化石燃料の使用量を削減する

○本社の排出量をグラフにしてみました。



本社は電力とガソリン使用により二酸化炭素を排出しています。今年度の、電力における二酸化炭素排出係数は0.509を採用します。今年度は各使用量が増加したため、基準年度より電力で108.6%、ガソリンで107.2%も増加しました。これらを合計した本社分の二酸化炭素排出量は、基準年度より107.8%増加しました。今年度は活動計画を策定したものの、それぞれの使用量の削減活動を推進しましたが、活動成果としては評価の出ない年だったと捉えます。

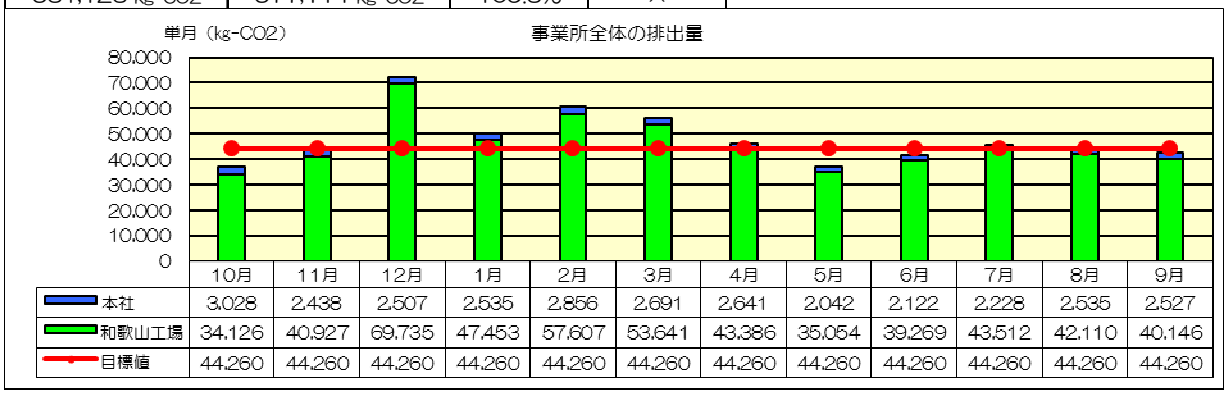
○和歌山工場の排出量をグラフにしてみました。



和歌山工場では、電力とガソリンに加え軽油と灯油の4項目で二酸化炭素を排出しており、主に電力使用量による排出が全体の約85%を占めていることが分かりました。今年度の、電力における二酸化炭素排出係数は0.634で算出します。また、12月から３月は暖房機器を使用するため排出量は他の月よりも多くなります。今年度の二酸化炭素排出量は4項目の内ガソリン使用量で削減できましたが3項目が増加したため基準年度より106.4%増加しました。

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
531,123 kg-CO2	577,114 kg-CO2	109.3%	×



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社	3,028	2,438	2,507	2,535	2,856	2,691	2,641	2,042	2,122	2,228	2,535	2,527
和歌山工場	34,126	40,927	69,735	47,453	57,607	53,641	43,386	35,054	39,269	43,512	42,110	40,146
目標値	44,260	44,260	44,260	44,260	44,260	44,260	44,260	44,260	44,260	44,260	44,260	44,260

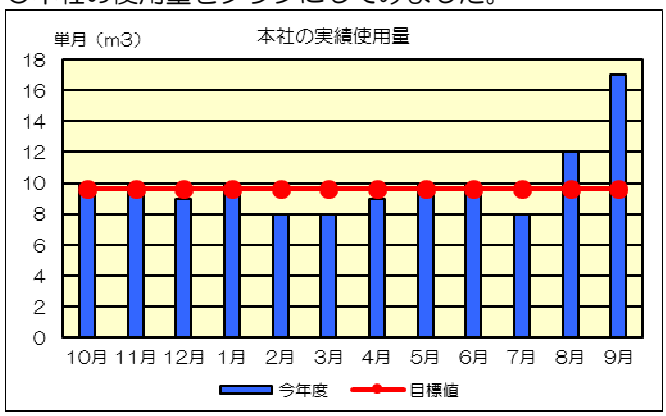
弊社における二酸化炭素排出量のうち約95%を和歌山工場で排出しています。今年度は仕事量の増加による電力使用量の増加や外注加工業者への部材搬入機会の増加による軽油使用量の増加、併せて冬期の低温や残業時間増加による灯油使用量が増加したため、基準年度より35,153kg-CO2も増加しました。事業所全体の取組結果は、目標値531,123kg-CO2に対し109.3%も増加し目標未達成となりました。今後は、5月の中間報告において上期終了時点で目標達成成績の悪い項目の環境活動計画を再度周知し下半期の巻き返しを計ります。

★水道水の使用量削減

○環境活動計画（本社、和歌山工場共通）

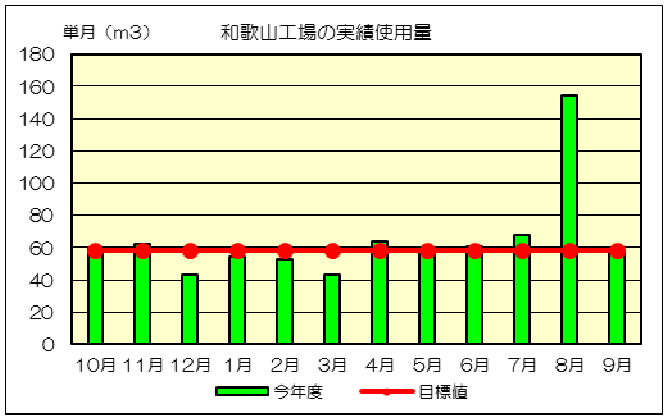
- 節水の呼びかけ
- 洗浄工程の見直しとルール化による使用量削減（和歌山工場のみ）

○本社の使用量をグラフにしてみました。



本社では、主に生活用水として利用しています。左記グラフにおいて今年度の使用量を表す棒グラフはほぼ基準年度線に添っており各月の使用量は例年同じような傾向にあります。しかし、今年度の実績使用量は基準年度より103.4%増加しました。今後も引き続き節水を推進しますが、生活用水の観点から現状を維持するための活動を実践します。

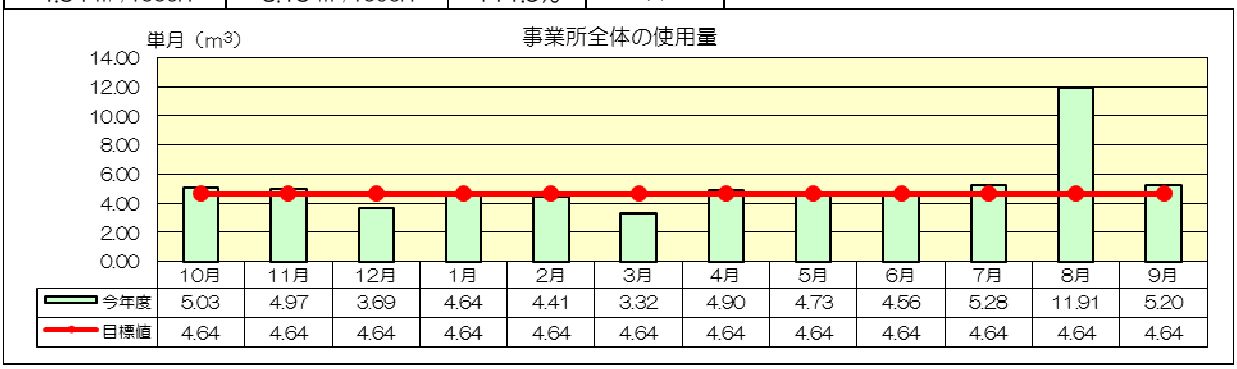
○和歌山工場の使用量をグラフにしてみました。



和歌山工場では、生活用水に加え受注した仕事内容により部材の洗浄や水漏れ検査等でも使用します。今年度は、8月の使用量が例年の2倍を超える使用量となったため作業者に洗浄方法について聞取りをしましたが問題はありませんでした。また、建屋内や敷地内のどこかで漏洩しているのではと推察し点検しましたが異常はなく、結局原因不明でした。今年度の実績使用量は、基準年度より109.1%増加しました。今後も節水の推進や洗浄工程での使用量削減に努めます。

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
4.64 m^3/1000H	5.19 m^3/1000H	111.9%	×



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
今年度	5.03	4.97	3.69	4.64	4.41	3.32	4.90	4.73	4.56	5.28	11.91	5.20
目標値	4.64	4.64	4.64	4.64	4.64	4.64	4.64	4.64	4.64	4.64	4.64	4.64

弊社の水道使用量は、本社では主に生活用水としているためほぼ例年同じ使用量であることが分かりました。和歌山工場では、例年7月から9月の暑い時期に食堂や休憩室に従業員が一息つけるようにお茶を沸かしているため使用量が多くなる期間ですが、今年度は熱中症予防のため個人で飲料水を持参している従業員が増えたためお茶を沸かすための使用量は削減できたと思われます。しかし、原因不明の使用量増加も発生した為、今年度の事業所全体の実績使用量は基準年度より69m^3増加、就業時間千時間当たりの使用量は目標値より111.9%増加し目標未達成となりました。今後も引き続き節水の推進と、洗浄工程でのルール遵守により使用量削減に努めます。

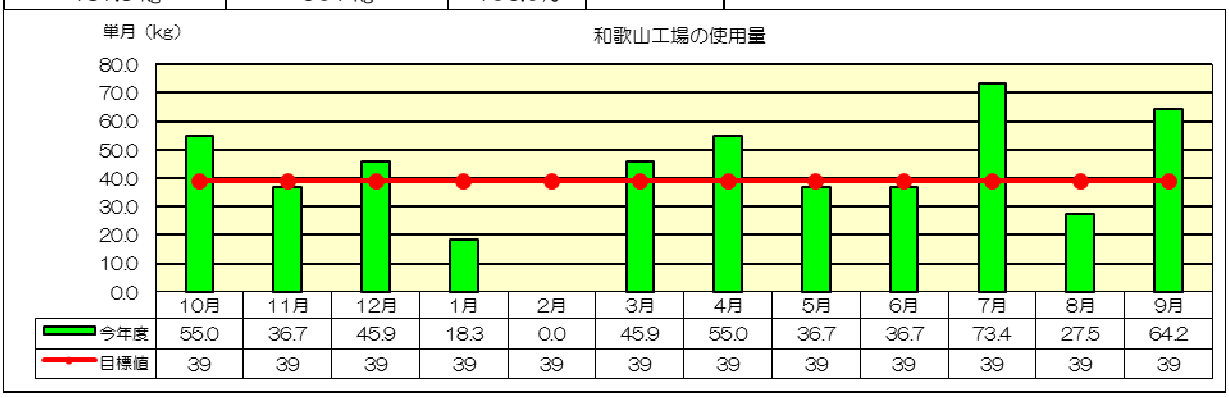
★化学物質の使用量削減

〇環境活動計画（和歌山工場のみ）

- 代替材の使用量拡大
- 化学物質の適正管理
- 化学物質を大量使用する場合のルール決定

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
467.5 kg	901 kg	106.0%	×



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
今年度	55.0	36.7	45.9	18.3	0.0	45.9	55.0	36.7	36.7	73.4	27.5	64.2
目標値	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39

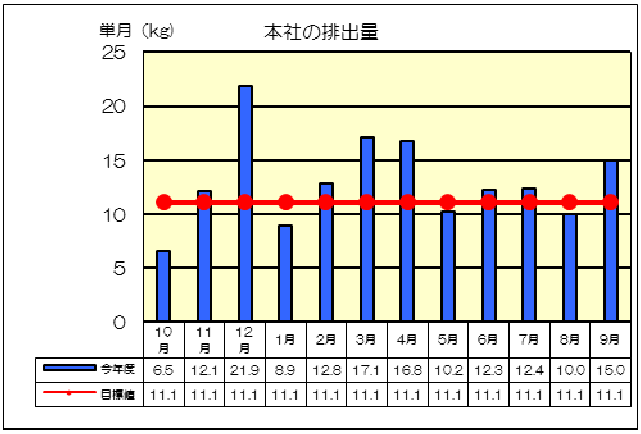
弊社は化学物質そのものを扱っているのではなく、和歌山工場で使用する部材に付着した油脂を洗浄する洗浄剤に含まれている化学物質の削減に努めています。今年度の後半は、受注した仕事内容により多量の部材に付着した油脂を洗浄しなければならず洗浄剤の使用量は増加しました。また作業方法の改善による使用量削減に努めましたが、洗浄機会の増加には勝てませんでした。その為、今年度の実績使用量は基準年度と比べ18.4kgも増加しました。取組結果は目標値よりも106.0%増加し目標未達成となりました。今後は、油脂洗浄の方法の見直しを行い使用量削減に努めます。

★一般廃棄物（燃えるごみ）の排出量削減

〇環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

- 分別回収の徹底
- １枚ベスト運動の推進
- LAN有効利用による紙文書の削減

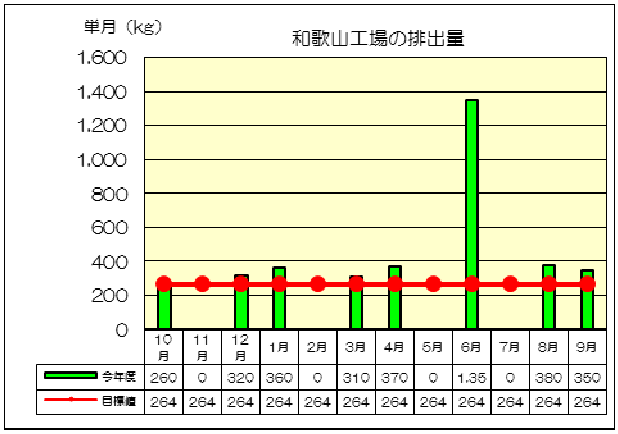
〇本社の排出量をグラフにしてみました。



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
今年度	6.5	12.1	21.9	8.9	12.8	17.1	16.8	10.2	12.3	12.4	10.0	15.0
目標値	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1

本社は事務所形態なので、一般廃棄物の内容はほぼ燃えるごみです。シュレッダーくずは業者により回収されます。今年度は仕事量の増加による製作図面が増加したため紙ごみの排出量が増加し、基準年度よりも20kg増加しました。

〇和歌山工場の排出量をグラフにしてみました。

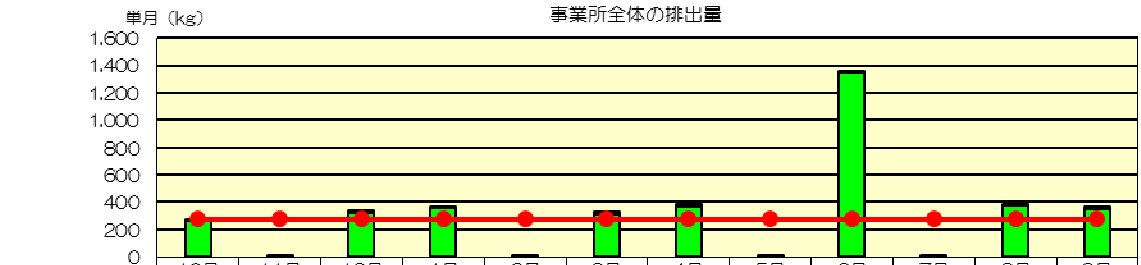


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
今年度	260	0	320	360	0	310	370	0	1,35	0	380	350
目標値	264	264	264	264	264	264	264	264	264	264	264	264

和歌山工場では、分別回収など実践し廃棄物削減に取組みました。しかし、今年度は6月に梱包方法の変更により使用しなくなったコルク板をを大量に排出した為、基準年度より470kgも増加しました。

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
3,299 kg	3,856 kg	116.9%	×



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社	6.5	12.1	21.9	8.9	12.8	17.1	16.8	10.2	12.3	12.4	10.0	15.0
和歌山工場	260.0	0.0	320.0	360.0	0.0	310.0	370.0	0.0	1,350.0	0.0	380.0	350.0
目標値	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275

弊社の一般廃棄物排出量の大半は、和歌山工場から排出しています。燃えるごみには、受注した製品を製造するために購入した素材の梱包紙も含むので、素材購入量が増加すると燃えるごみも増加する傾向にあります。和歌山工場は、地域のごみ焼却施設まで自社のトラックを活用して搬入している為排出機会が増加すると軽油使用量も増加します。その為、場内で収集した可燃ごみを一旦保管し運搬効率を図っています。単月排出量がゼロになっている月は、保管していることを意味します。今年度の事業所全体の取組結果は、目標値より116.9%増加し目標未達成となりました。今後は、素材梱包紙など汚れていない場合は、工場から宅急便で製品を配送する時の梱包資材に再活用するなどして排出量削減に努めます。

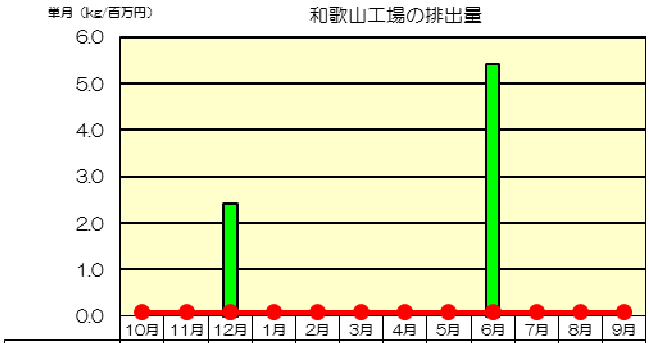
★産業廃棄物（混合廃棄物）の排出量削減

〇環境活動計画（和歌山工場のみ）

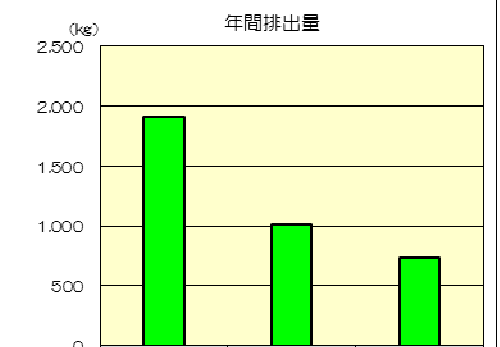
- ３Rの推進
- 分別の徹底
- サンダーディスクの長寿命化

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
1.02 kg/百万円	0.79 kg/百万円	77.5%	〇



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
今年度	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	0.0
目標値	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08



	平成26年度	平成27年度	平成28年度
年間使用量	1,905	1,010	730

和歌山工場では、日々の生産活動によってサンダーディスクや溶接機トーチの部品など大量の消耗品が発生します。サンダーディスクとは、サンダーと呼ばれる電動工具に装着し主に溶接後の溶接ビードを削る工程で使用するディスクのことです。最近、受注する仕事内容の大半は外観を重視される場合が多く、ディスクの使用頻度は多くなっています。しかし、今年度の排出機会は２回しかなく過去3年間で最小量を記録しました。今年度の取組結果は、目標値より22.5%も削減でき目標達成出来ました。今後も３Rの推進や消耗品の長寿命化など推進し作業者一人ひとりが協力し合い削減に努めます。

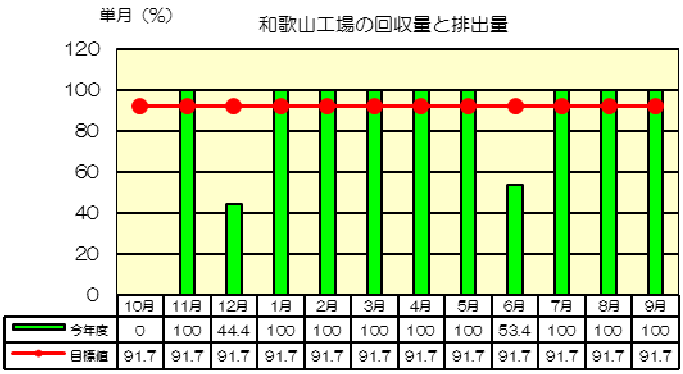
★産業廃棄物（廃プラスチック）の排出量削減

〇環境活動計画（和歌山工場のみ）

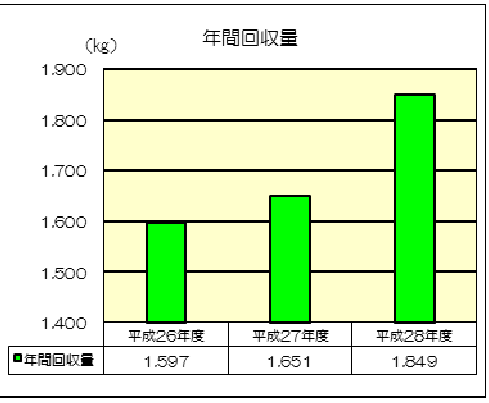
- 保護テープ以外の傷防止策による使用量削減
- 傷防止策の構築

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
91.7 %	92.0 %	100.3%	〇



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
今年度	0	100	44.4	100	100	100	100	100	53.4	100	100	100
目標値	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7



	平成26年度	平成27年度	平成28年度
年間回収量	1.597	1.651	1.849

弊社では、和歌山工場から排出される廃プラスチックのうち回収できるものは回収業者によってリサイクルされています。なお、溶接ワイヤのスプールや汚れている物については産業廃棄物として排出しています。今年度の環境活動目標は、排出量のうちどのくらいリサイクルされているかを表す再利用率で評価します。和歌山工場から回収されるプラスチックごみは、製作工程中に発生するすりキズ等を保護するテープが大半を占めています。外観を重視されるお客様が増えたこと使用量が増加し購入量も増加しています。今年度の取組結果は、目標91.7%に対し0.3ポイント上回る92.0%となり目標達成できました。

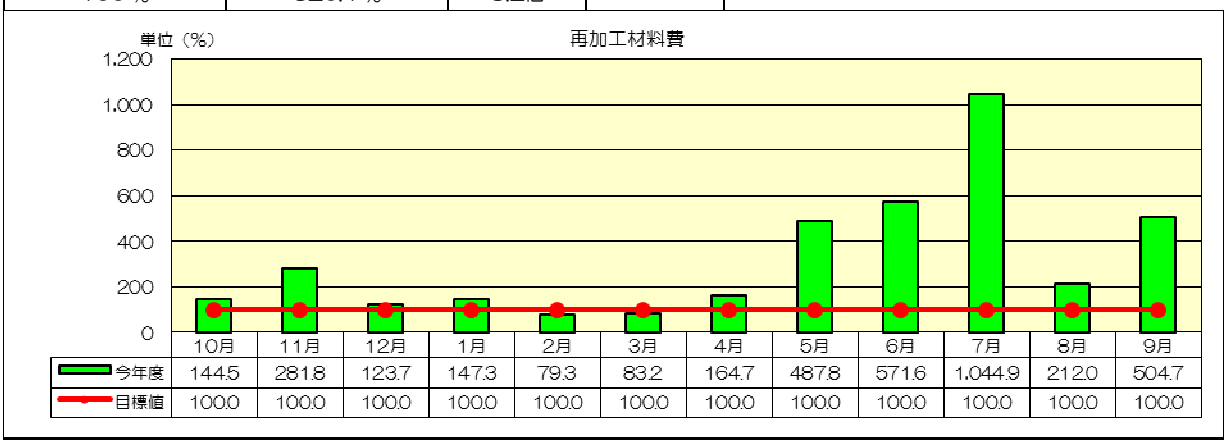
★再加工材料費の削減

〇環境活動計画（和歌山工場のみ）

- 素材の歩留まり向上
- 加工ミスによる素材損出の削減

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
100 %	320.4 %	3.2倍	×



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
今年度	144.5	281.8	123.7	147.3	79.3	83.2	164.7	487.8	571.6	1,044.9	212.0	504.7
目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

弊社では、不具合等による再加工に費やした材料費を検証して不必要な経費削減に努めています。不具合の内容は品質保証室から情報提供されていますが、不具合件数の増加に伴い再加工件数及び再加工材料費が増加し、今年度の取組結果は目標値に対し3.2倍となり目標未達成となりました。今後は、不具合対策や作業者による作業後の自主検査を徹底させ不具合発生防止に努め、再加工材料費削減に努めます。

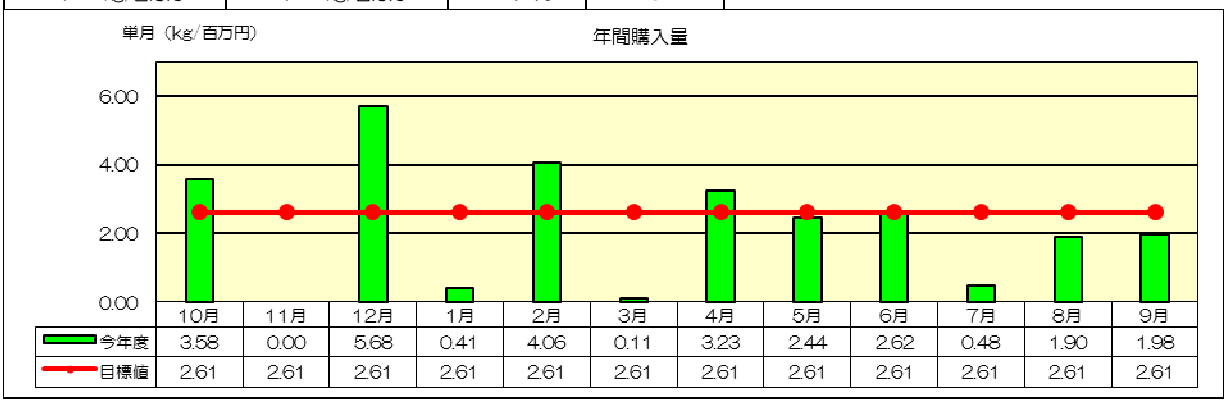
★梱包資材の購入量削減

〇環境活動計画（和歌山工場のみ）

- 外注先搬送時への通い台車の利用促進
- 梱包の簡素化による使用量低減
- 梱包資材のリユース促進

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
2.61 kg/百万円	2.19 kg/百万円	83.9%	〇



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
今年度	3.58	0.00	5.68	0.41	4.06	0.11	3.23	2.44	2.62	0.48	1.90	1.98
目標値	2.61	2.61	2.61	2.61	2.61	2.61	2.61	2.61	2.61	2.61	2.61	2.61

和歌山工場からは毎日多量の部品や製品が、外注加工先やお客様まで搬送されています。搬送時に、部材がパレット等から荷崩れしないようストレッチフィルムで養生したり、部材をエアーキャップで包んでいます。また、お客様から納品時の養生方法を指定される場合もあります。今年度の実績使用量は、梱包の簡素化などの推進効果が表れ基準年度より567kgも削減出来ました。取組結果は目標値より16.1%も削減でき、目標達成となりました。今後も梱包の簡素化など推進し梱包資材の削減に努めます。

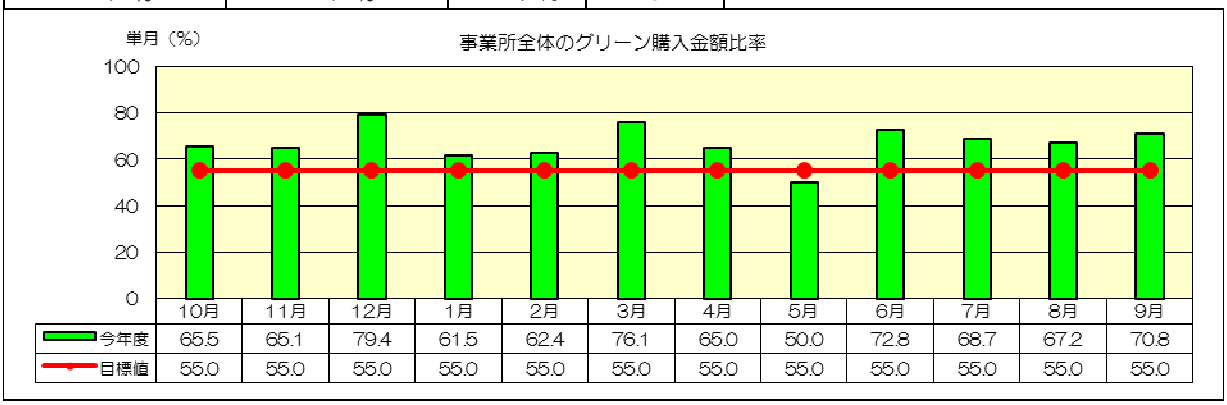
★グリーン購入金額比率の向上

〇環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

- グリーン購入比率の拡大
- グリーン対応商品の周知
- 環境ラベルの周知

●今年度の活動結果は……

目標	実績	対目標	評価
55.0 %	67.0 %	121.8%	〇



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
今年度	65.5	65.1	79.4	61.5	62.4	76.1	65.0	50.0	72.8	68.7	67.2	70.8
目標値	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0

弊社では、社内で利用する備品の総購入金額に対する環境対応商品の購入金額の割合をグリーン購入金額比率として評価します。備品の購入時は、可能な限り環境対応商品を選定するよう推進していますが、必要な備品は全て環境に対応しているとは限りません。また、購入単価を比較した場合コスト削減の観点から環境対応商品を購入しない場合もあります。しかし、今年度の取組結果は、目標値より12ポイント向上し目標達成となりました。今後も備品購入時は環境対応商品を優先しグリーン購入金額比率の向上に努めます。

エコ活動への取組

★QCサークル活動で環境への取り組みを推進しています。

弊社では、QCサークル活動で環境への取り組みをサブテーマに掲げ活動を推進しています。今年度の各サークル活動の一例をご紹介します。

○間引き点灯で節電しています

○エコキャップを回収しています。

○タオルウエスを再利用しています。

使ったタオルウエスで、比較的汚れていないものを洗って再利用しています。

○タオルウエスを再活用しています。

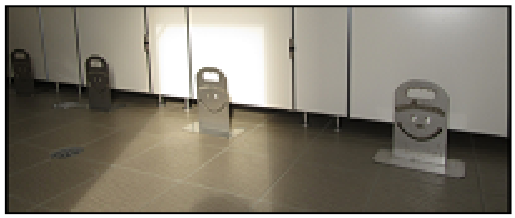
汚れて使えないウエスは、機械のオイル拭き用として再活用しています。

★剰余材の有効利用をしました。

剰余材でドアストッパーを作成しました。

○ドアの開放ができ、自然の風で空気の入れ替えができます。

○トイレドア用もあります。開けたままに出来るので掃除時間の短縮ができます。



社員教育の実施

★中間報告と結果報告の実施

弊社では11月と5月に実施しているQCサークル活動報告会の後、エコアクション活動の中間報告と結果報告を実施し、今後の活動に役立つよう啓発しています。

〇11月の結果報告

和歌山工場の食堂で開催。前年度の活動結果報告と今年度の活動目標と活動計画を報告しています。

〇５月の中間報告

和歌山工場近隣のしみず会館で開催。今年度上半期の活動中間報告と下半期の活動提案を実施しています。

地域社会への取組

★地元小学生の工場見学

地元の小学校３年生が和歌山工場に見学に来てくれました。
見学後の質問コーナーでは「お仕事はしんどくないですか」「楽しいですか」などの質問がありました。将来は、この会社で働きたいと言ってくれた生徒さんもいました。

★中学生の体験学習

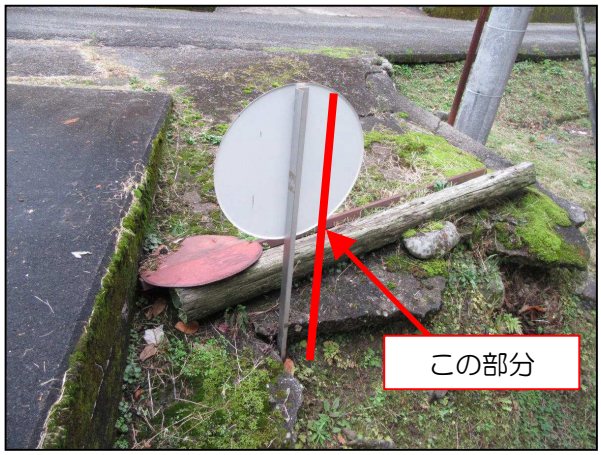
地元中学校の生徒さんが、和歌山工場で３日間体験学習をしてくれました。

★有田川町「CCOL CHOICE」への賛同

有田川町建設環境部環境衛生課の「有田川というエコのまち」実現へ向けた呼びかけで、「COOL CHOICE」への賛同をさせて頂きました。

★防火水槽の表示板を建替えました

地域消防団に所属している従業員からの依頼を受け、工場に隣接している地域の防火水槽の表示板修繕において、材料として使用できないステンレス型材を表示板の支柱として再利用しました。



★かもめタウン大作戦への協賛

かもめーる(暑中・残暑見舞はがき)で、特殊詐欺被害防止を呼びかける有田川町内郵便局の活動、「かもめタウン大作戦」に協賛させて頂きました。

★献血への協力

・今年度も献血車が和歌山工場に来場され、大勢の従業員が献血に協力しました。

【和歌山県赤十字血液センター】

今回は、左記のようなステッカーでキャンペーンをされていました。

「Be Nice to me ,I gave blood today!」

日本語に訳すと、
「今日献血したから、やさしくしてね。」です。

今日は、あなたが“だれかの命を救った日”…

弊社は、引き続き献血に協力致します。

★平成27年度内に集めたエコキャップを提出しました。

QCサークル「インスペクト」と協力して実施しているエコキャップ運動で回収できたペットボトルキャップを、エコキャップ運動を支援している有田川町社会福祉協議会清水事務所へ寄贈しました。

エコキャップ収集活動 ECO CAP 取り組みのご紹介とご報告

11月18日、株式会社坂口製作所の方々が、当会清水事務所へエコキャップ6，758個を届けてくれました。

昨年に引き続き「エコアクション21」環境保全活動の一環で取り組まれている「エコキャップ収集活動」で職員・地域の皆さまによって集められたものを持ってきて下さいました。昨年の記事を読んで地域の皆さまも持ち寄って下さったそうです。ご協力ありがとうございました。

この他にも皆さまから各事務所に毎週多くのエコキャップが持ち寄られています。

これからもだれでもいつでも始められる「ちょいボラ」にご協力よろしくお願い致します。

(右)坂口製作所代表取締役 坂口清信氏
(左)清水事務所長

エコキャップ推進協会より受領書が届きました!!

今回、エコキャップ推進協会に搬入したエコキャップの個数は 23,650 個です。

累計個数（2016/12/8 時点）は、615,975 個となりました！！

ご提供いただいたエコキャップは、再生プラスチック原料として換金し、ブータン王国への医療支援をはじめ、ワクチン支援や障害者支援、子どもたちへの環境教育等、様々な社会貢献活動にあてられています。

日頃よりエコキャップ収集活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。今後も、エコキャップの収集にご協力よろしくお願いします。

後日、社会福祉協議会で発行されている広報誌に、弊社のエコキャップ運動を掲載して頂きました。弊社は、引き続きエコキャップ運動を継続します。

★弊社の環境活動レポートがエコフェスプロフェッショナル賞を受賞しました。

5月26日、大阪府中小企業家同友会エコフェスティバル２０１７において、弊社の環境活動レポートがエコフェスプロフェッショナル賞を受賞しました。

大阪同友会エコフェスティバル2017

エコフェスプロフェッショナル賞

株式会社　坂口製作所殿

貴社は大阪同友会エコフェスティバルにおいて
環境レポートが優秀と認められます
よってここに表彰します

平成29年 5月26日
大阪府中小企業家同友会
代表理事　仁尾 正之
代表理事　森嶋 勲
代表理事　山田 晃

★近畿鍛工品事業協同組合の合同会議において、弊社の環境活動への取組みを紹介させて頂きました。

7月26日、エコアクション２１地域事務局大阪からの依頼で、近畿鍛工品事業協同組合の合同会議において弊社の環境活動への取組を紹介させて頂きました

★大阪中小企業家同友会西成住之江支部の皆様の工場見学

9月9日、大阪府中小企業家同友会西成住之江支部の皆様が和歌山工場へ工場見学に来られました。当日は弊社の環境活動の取組等について説明しました。

その他の活動

★第２０回環境コミュニケーション大賞環境活動レポート部門で優良賞受賞

2月22日、弊社の「平成２６年度環境活動レポート」が第２０回環境コミュニケーション大賞環境活動レポート部門で優良賞を受賞しました。
　東京で開催された授賞式に出席しました。

★エコアクション２１導入セミナーで公演させていただきました

６月２３日に大阪市で開催された「新・エコアクション２１導入セミナー」で弊社の活動を報告させて頂きました。

全体討論ではみなさまの質問に
答えさせて頂きました

環境関連法規制等の取りまとめ

環境関連法規制等への違反はありません。また、関係当局より違反等の指摘及び近隣住民からの苦情は過去３年間ありません。

環境関連法規制の名称	該当する要求事項	該当する設備・項目
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・委託契約書	・混合廃棄物の委託管理 ・廃油の委託管理
	・保管基準	
	・産業廃棄物管理票の発行と保管	
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	
	・特別管理産業廃棄物管理責任者の選任	
騒音規制法	・特定施設設備の届け出	・液圧及び機械プレス、せん断機、コンプレッサー等
	・基準値（65db）の遵守	
振動規制法	・特定施設設備の届け出	・液圧及び機械プレス、せん断機
	・基準値（65db）の遵守	
フロン排出抑制法	・廃棄、修理時の回収義務	・業務用エアコン
	・簡易定期点検、定期点検の実務	
浄化槽法	・浄化槽の保守点検実務	・浄化槽
	・年1回の浄化槽定期点検実務	
消防法	・少量危険物貯槽所の届け出	・灯油、塗料、シンナー貯蔵取扱い、火災報知器、消火器
	・保管量の遵守	
	・消防施設点検と報告	
	・防火管理者の選任	
毒物劇物取締法	・施錠、劇物表示、飛散漏れ防止	・洗浄剤

代表者による全体の評価と見直し

今年度はついに念願の環境コミュニケーション大賞の環境活動レポート部門で優良賞を受賞することができた。このことはこれまでの弊社の取組が全体として間違っていなかったことの証左である。一方で、受賞企業としての責任も感じなければならない。今後は受賞企業の名に恥じない活動を展開していただきたい。

ただ、今年度の実績は、目標未達項目が多く、反省すべき点、改善すべき点は大いにある。特に不良対策については、次年度しっかりと結果を出してほしい。

工場照明のLED化は今年度も積み残しとなったが、次年度は改めて見積取得し、補助金等活用の可能性などを調査したい。併せて、工場内の作業環境改善（※夏季の熱中症対策、分煙化など）や安全対策（ゲリラ豪雨対策等）についても、優先順位を付け着手していきたい。

※環境活動レポートの作成につきまして、ガイドラインには事業年度終了後速やかに作成することとありますが仕事業務の多忙によりこの時期まで作成遅延させてしまったことをお詫び申し上げます。

TRADE MARK

SAKAGUCHI SEISAKUSHO